

## サービス担当者会議に家族を巻き込む

特別養護老人ホーム 浜北愛光園  
吉川 宏朝  
土井 葉帆子

## 取り組んだ課題

- 専門職が一つのチームとなり利用者を支えている

↓  
その中には

家族も含まれる

〔 身の回りの物品購入  
精神的な支え など 〕

- 多岐にわたり役割を担っている

家族はチームの一員！！

↓  
しかし

意向を確認するのみ

2

## 具体的な取組み<目的>

- 家族の思いを施設サービス計画書に反映させる
- 家族に役割意識を持ってもらう
- 職員との連携やコミュニケーションを深め情報を共有する

3

## 具体的な取組み<予測結果及び効果>

- 家族が役割意識を持つようになる
- 職員と情報が共有できる
- 家族の意向や思いを施設サービス計画書に反映させる事ができる

4

## 具体的な課題<方法>

- 対象  
各ユニット1名とし4名選抜する
- 期間  
選抜した利用者のサービス担当者会議に合わせて実施する
- 方法  
当該利用者の家族に了承を得たうえでサービス担当者会議に参加してもらう  
感じた事を家族と職員に聞き取り調査する
- 倫理的配慮  
家族に研究の主旨を説明し、個人情報の漏洩に配慮する事を伝えている

5

## 活動の成果と評価<結果(利用者A様)>

職員は

- 活動時間の減少
  - 認知機能の低下
  - ADLの低下
  - 食事の摂取量が少ない
- この4つを柱として施設サービス計画書を作成

↓  
しかし

家族は

「あまり無理をせずに本人のペースに合わせて欲しい。  
このままの安定した状態を維持できる事を望んでいる」との意見が出た

6

### 活動の成果と評価<結果(利用者B様)>

- 外泊への強い意向があるが、吸引が適宜必要になる可能性がある事を伝える

↓ 家族は

外泊する事への不安な発言がある

- 介護だけではなく看護やその他の専門職から説明

↓ 家族は

不安が和らぐ

7

### 活動の成果と評価<結果(利用者C様)>

- 見慣れない職員が大勢いた為、圧倒されていた
- 普段の生活の様子や状態を家族に伝える事が出来ず家族の意見を多く聞くことが出来なかった

8

### 活動の成果と評価<まとめ①>

- 意向確認だけでは、ギャップが生じる  
→職員の思いが主体のサービス計画書になっていた

↓ 問題解決

家族と話し合う機会を設ける事でギャップが埋まる

- 家族が抱える不安に気付く事が出来る

↓ 問題解決

各専門職が説明することにより、不安が解消出来る

9

### 活動の成果と評価<まとめ②>

- 家族としては不慣れな環境

↓ 今後

話しやすい環境作り

- 目指すケアの方向性が一致する

- 適切な助言が行えた

10

### 活動の成果と評価<その後(B様の場合)>

- 外泊を2回実施する

↓ 不安要素

- ・移動手段は自家用車であり乗降は妻一人
- ・車の乗り降りが一苦勞と語っていた

↓ 懸念

ADLの低下があると移動(乗降)が困難になる

11

### 活動の成果と評価<その後(B様の場合)>

- 現在は外泊できない

↓ 吸引が常時必要

- 妻は吸引行為が出来ない
- ・医療行為への恐怖心
- ・技術不足

↓ 現在の意向

- 妻の意向としては、引き続き外泊の希望はある

12

### 活動の成果と評価<その後(B様の場合)>

- 外泊に繋げる為の働きかけ
  - ・妻に吸引の方法を指導し技術向上を図る
  - ・嚥下機能の向上を図り吸引の回数を減らす
  - ・移乗時に必要なADLの低下を予防する
  - ・他の移動手段の情報を提供する
- 他職種と連携して外泊が出来る様に働きかける

13

### 今後の課題

- 家族の意向とは異なった見解が必要な場合  
↓  
リスクの説明を分かり易く行い理解を得る
- 家族が話しやすい場を作る為の環境作り
  - ・事前にどのような状況での会議になるのか説明する
  - ・参加者の自己紹介
  - ・利用者の現状と話し合いたい課題を簡単に説明する
  - ・専門用語を使用しない など
- 家族と連携やコミュニケーションを深め共有する

14

### 参考文献

- 担当者会議向上委員会『サービス担当者会議マニュアル』  
(中央法規、2012年)
- 篠田道子『改訂 質の高いケアマネジメント』 (中央法規、2008年)

15

○ ご清聴ありがとうございました

16